

特集② 労働組合が契約している「鎌倉英夫弁護士」を紹介

弁護士は法律のサービス業！



●鎌倉英夫弁護士の略歴

- 1981年 弁護士登録 第二東京弁護士会所属
- 昭和43年 東京大学文学部 第三期卒業
- 主な活動
 - 大塚建設株式会社 監査役
 - 学校法人 関東国際学園 理事
 - 財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団 専門委員会
 - 他、建設・不動産・製造・サービス・通信・医療・社団法人など約70社との顧問契約

編者

弁護士を始めたきっかけは30歳の時

Q 初めから弁護士を志すというわけではなく伺いました。

A 私はもともとサラリーマンでした。本学卒業後、本田技研工業(株)に入社し自動車やオートバイをアメリカやヨーロッパに輸出する仕事をしていました。本学は文芸部に進んだのもともと語学が得意で、契約書を英文で作っていました。ある日、上司から「契約書に問題がないか弁護士事務所に行つて確認してもらってくれ」と指示があり、そこで「弁護士」という仕事に傾きました。当時、お世話になっていた弁護士

と体調が悪くなる姓なので、余計に苦にならなかつたのかもしれない(笑)。

平日は裁判所で、土日はゴルフ場で戦います！

Q 現在お土日・農閑期も仕事されているのでしょうか？

A 私は概して18:00~19:00には家に帰るようになっています。その代わり農閑の時間帯は常に仕事に追われていて、基本的には時間がありません。現在は月に10件ほどの裁判があり、1つの裁判につき10~40枚の資料を作成します。1つの裁判が終わればすぐに次の裁判の資料を作って見直し、提出期限もあるので相当な作業量です。しかし、土日は別です。通常の土日はゴルフ場通いです。年間1000ラウンドくらいプレイしています。平日は裁判所で戦い、休日はゴルフ場で戦っている、そんなところでしょうか(笑)。

Q 平日がそれほどうるさいのに、土日のゴルフで疲れが出ないのですか？

A ゴルフで気分転換できているので、やらなければ余計に疲れが出るとは思います。平日は神経をすり減らし頭を痛め、土日のゴルフは体力を使うのでバランスよく、よりフレッシュになっていきます。また、ゴルフ中に今まで考えつかなかったような発想が浮かんでくることか

あります。いつも頭の中に入れておくことが大事で、気分転換をすることで整理ができてくる感覚です。だから私にはゴルフが欠かせないのです。私は10歳を越えていますが、この気分転換と今までの経験が融合できており、今までの生きざまの中で一番頭が冴えている気がします。

Q 休日相談契約していただいてもありますが、ご選定はありますか？

A 休日はいたいゴルフをしますが、いつでも対応します。弁護士は「法律のサービス業」と思っていますので、携帯電話はいつでもオンにしてあります。ラケット中もすぐに電話に出られるようにしていますので、たとえ電話に出られなかつたとしてもすぐにかかれます。「すぐに返事がほしい」「今困っている」「すぐに対応してほしい」というお客さんが大半です。私はお客さん第一主義ですから、迅速に返答することを心がけています。

ジャンルを問わずどんな相談も受け付けます

Q 得意分野は何ですか？

A 民事事件を取り扱うことが多いですが、得意・不得意はありません。医療裁判はやりませんが「民事事件」が受けています。という弁護士もいますが、弁護士という仕事は勉強すれば何でもできるのです。現在、交通事故で「高

に傾成が大きい」といって退職を志していたところに「この仕事は人の役にたてるし、定年がない。一生サラリーマンであるより弁護士になったほうが良いな」と思い、「よし、弁護士になろう」と決め、そこから勉強を始めました。

Q 司法試験は大変難しいと聞きますが、ご苦労されたのではないですか？

A 私は独学で勉強しましたが、勉強し始めてから司法試験に合格するまで5年ほどかかりました。まず、我妻榮氏がごまごまさんの「民法家内」という本を読みました。私の場合、社会に出てからかなり時間経過していたので、民法の本を読んでもより興味があり、我妻さんの本やその他の民法を研究進めようと思つたところから民法の勉強になってしまいました。とくに我妻さんの「民法家内」は全く読まずにはいられず、手紙がわりやすく書かれているので、楽しみながら勉強した記憶があります。社会に出てから読むと面白いので、是非お勧めです。

Q 会社勤めをしながら勉強されていたとのことですが、勉強する時間はどうやって捻出されたのでしょうか？

A 土日は本犬の図書館に行き、平日は電車の中などで勉強していました。勉強する量は膨大な量でしたが、勉強が面白かつたので、暇を取りながら民法の知識が自分の中に入つて来る感覚がありました。働きながらだったので、夜もかなり勉強しましたね。私は常に動いていな

次読書(人が一般的に行っている読書に臨まずに出る「病状」)を察している事件や、インターネット手術での医療ミスにより口が麻痺して嚥下できなくなり、頭蓋膿瘍を求めた医療事件なども担当しています。カルテを分析してどこに過失があるのかを調べたり、医学の専門書を讀んで勉強したりは気持ち悪いものもありますが、移動の時間などに音読を使い、常に勉強しています。相手は専門家なので、同じレベルで話すためには相当勉強しなければなりません。対等に議論できようになるまで徹底的に勉強します。また、70社以上の会社の顧問をしていますので、著作権問題や不動産問題のことも、ジャンルを問わず何でも対応しています。今までの裁判では原則として勝訴していますので、みなさんの役に立てると自負しています。



特集② 労働組合が契約している「鎌倉英夫弁護士」を紹介